



「命の大切さ」

校長 佐藤 邦彦

近年、都市化や少子化、核家族化などの進行により、家での出産や親族の死など、子どもたちが「命」にふれる機会、生や死について考えたり、命には限りがあること、かけがえのないものであることを自分の体験として実感したり、理解したりする機会が非常に少なくなっていると言われていています。また、人間関係の希薄化や直接体験の不足、ゲーム機を中心とした遊びの増加などにより、仮想現実(虚構)の世界の中での「死」に頻繁に接し、実感を伴わない「死」の感覚が、「命」の軽視につながっているとも言われています。あるアンケート調査では、「人間は死んでも生き返る」「リセットすればやり直せる」と考えている子どもが増えているという結果が出ているそうです。

「命は大切ですか？」と尋ねられれば、「大切ですよ！」とほぼ全員が答えるでしょう。しかし、大事なことは「命は大切である」と言葉の上で理解することではなく、一人一人が心からそう実感できることです。

では、そう実感できるようにしていくためには、どうしたらよいのでしょうか。学校では、「命の大切さ」や「命を守る」ための学習を様々な機会を捉えて、繰り返し行っています。例えば、交通安全教室、セーフティ教室、自転車教室、避難訓練も、大切な「命を守る」ための学習の一つです。

また、学期ごとふれあい月間を活用しての全校児童への「アンケート」調査の実施、気になる児童と学級担任等の面談、家庭への連絡、5年生全児童のスクールカウンセラーとの面談等を行っています。

しかし、それらが子どもたちの内面(心の中)に、「生きることの喜び」や「生きていることへの感謝」

の気持ちを育てているかと言われると、残念ながらそうではありません。「命の大切さ」を実感することとは、子どもたち一人一人が「生きている喜び」を実感することに他なりません。人は、他者との関わりや感動体験の中で、豊かな感情(心)を育て、生きることの意味を見出していきます。子どもたちが生きる喜びを味わうのは、他者との関わりの中であり、そのためにも、互いに理解し支え合う気持ちやその思いを伝え合う力を育てていかなければなりません。生活の中で他者との関わりを深め、喜びや悲しみ、楽しさや苦しさを体験させ、命と向き合えるような機会を多く与えること、それが、大人、特に親や教師の大切な役割であると思います。

さらに、子どもたちが自分自身を肯定し、「自分にも良いところがいっぱいある」「自分はかけがえのない存在」という自尊感情を育てること。日々の生活の中で認められたりほめられたりする体験、自分のよさを発見できる経験を積み重ねること。それが、「生きていてよかった」「生きるって素晴らしい」という気持ちを確かなものにしていくのだと思います。

○みんなには「良いところ」がたくさんあること

○命は一度失うと取り返すことができないこと

だからこそ命はかけがえのないものであること

○自分の命は受け継がれてきたものであること

○命は自分だけのものではないこと

つながっているものであるということ

○自分はたった一人で生きているのではないこと

他者と共に生きている存在であるということ 等

松中小学校では、今後も「人との関わり」や「成功体験」を大切に豊かな心情を育てる教育をすすめていきます。

【10月の予定】

日	曜	行事予定等
1	土	
2	日	
3	月	学校朝会（1年）避難訓練（1校時） 委員会活動
4	火	安全指導
5	水	運動会全校練習 まつなか塾⑨（2年） 未来塾（5年）のびようタイム（1年）
6	木	
7	金	運動会係児童打ち合わせ
8	土	
9	日	
10	月	スポーツの日
11	火	
12	水	運動会全校練習予備日 未来塾（5年）
13	木	
14	金	運動会前日準備（5・6年）
15	土	運動会
16	日	予備日①
17	月	振替休業日（土日雨の場合は授業日 4時間授業給食なし）
18	火	
19	水	児童集会 まつなか塾⑩（4年） 未来塾（5年）のびようタイム（1年）
20	木	いじめみのがさあずディ
21	金	校外学習（3年）うどむろ見学
22	土	予備日②
23	日	予備日③
24	月	予備日④ 振替休業日
25	火	セーフティ教室（体育館使用） 2校時1～3年 3校時4～6年
26	水	委員会発表（栽培）
27	木	開校記念日（52周年） 校内研究授業5校時（6-2）
28	金	たてわり班長会議（中休み）
29	土	
30	日	
31	月	学校朝会（まつのみ）出前授業（4年）ジャ イアンツアカデミー（23校時）



運動会について

- 参観について
 - ・感染予防のため、保護者の方は一家族2名の参観となります。
 - ・参観はすべて立ち見となります。参観は、お子様の出番のみとなるので、「運動会について」のお手紙でご確認してください。
 - ・当日、保護者の方の来校の際に健康チェックカードを校庭受付にて提出になります。忘れずにご持参ください。併せて来校者カードの着用をお願いいたします。
 - ・徒競走の時に、ゴール前に当該学年の優先エリアを設けていますが、自分のお子様の走る順番等事前に確認しておき、お子様の番が来たら譲り合ってください。
 - ・運動会の週の月曜日は、振替休業日または4時間授業（給食なし）になるので、ご注意ください。
 - ・感染予防のため本年度も、来賓、地域の方々の方々の参観はご遠慮いただきますようお願いいたします。

その他、詳細については配布済みの「運動会について」のお手紙でご確認ください。



休み時間に6年生と5年生のグループでの練習

体力テストの結果について

6月に実施した体力テストの結果が各家庭に届いていると思います。この結果を踏まえて、お子さんと、どの分野の運動をしていくかと話をしていただければと思います。もちろん平均より上なのか下なのかということがすべてではありませんが、一つの基準としていただくと目標が定めやすくなります。できることを決めて取り組むことで、さらなる体力の向上を図ってもらいたいところです。よい汗をかき、体力を向上させることで、免疫力の向上にもつながります。子どもたちが健康に学校生活を過ごすための一助としてご活用ください。

道徳授業地区公開講座のお知らせ

11月26日（土）は道徳授業地区公開講座を予定しています。当日は、授業公開の他、日野市立日野第三小学校元校長 京極 澄子 先生による講演会を行います。詳しい内容が決まりしだいお知らせの手紙を配布いたしますが、多くの方にお集まりいただきたくご案内させていただきます。

学力調査の結果より

1 はじめに

『令和4年度全国学力・学習状況調査』が、6年生を対象に4月19日に実施されました。目的は、「①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。②学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。③教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」こととされています。

また、東京都が行う『令和4年度児童・生徒の学力を図るための調査』は、5月・6月に4年生から6年生がタブレットPCで各自入力する意識調査を行いました。内容は『児童の学習意欲や学校・家庭での学習の進め方など「学びに向かう力」』等に関する内容』となっております。

2 学力に関する調査結果と分析

6年の学力調査について (2022.4.19実施)

① 各教科の調査結果

国語	松中小	東京都	全国
平均正答数	8.5/14	9.6/14	9.2/14
平均正答率	61	69	65.6

算数	松中小	東京都	全国
平均正答数	9.9/16	10.7/14	10.1/14
平均正答率	62	67	63.2

理科	松中小	東京都	全国
平均正答数	11.2/17	11.1/17	10.8/17
平均正答率	66	65	63.3

② 観点別の調査結果

A：観点別

		全体			知識・技能			思考・判断・表現		
		松中小	東京都	全国	松中小	東京都	全国	松中小	東京都	全国
A	国語	61	69	65.6	63.9	72.0	70.5	58.2	66.2	62.0
	算数	62	67	63.2	65.8	72.4	68.2	56.4	60.5	56.7
	理科	66	65	63.3	63.1	63.6	62.5	67.2	66.5	63.7

B：学習指導要領の領域

【国語】

	観点	領域	松中小	東京都	全国
B	知識・技能	言葉の特徴や使い方	64.6	71.4	69.0
		言語文化	60.7	75.5	77.9
	思考・判断・表現	A 話すこと・聞くこと	64.8	69.1	66.2
		B 書くこと	38.5	51.3	48.5
		C 読むこと	64.8	72.1	66.6

【算数】

	領域	松中小	東京都	全国
B	A 数と計算	64.8	72.1	69.8
	B 図形	64.8	68.6	64.0
	C 変化と関係	52.5	52.5	51.3
	D データの活用	66.1	66.1	68.7

【理科】

	領域	松中小	東京都	全国	
B	A 区分	エネルギーを柱とする領域	48.4	53.4	51.6
		粒子を柱とする領域	68.9	62.4	60.2
	B 区分	生命を柱とする領域	76.1	77.4	75.0
		地球を柱とする領域	68.2	75.0	64.6

③ 学力調査の全体的な結果分析

正答率を見ると理科以外は、東京都、全国を下回る結果となっている。特に、国語では「書くこと」「読むこと」が、算数では「数と計算」「図形」に課題が見られた。

基礎基本の学習内容の定着や思考・判断する力の育成等、本校児童の課題改善に向けて、継続して指導を行ってまいります。ご家庭でも学習したことの定着を図るために、学んだことをその日のうちに振り返る時間をもたせてほしいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3 課題を解決するために

(1) 各教科において、基礎・基本の確実な定着を図る。

○国語の「知識・技能」の領域に差が見られる。漢字の読み書きの問題では正答率が6割であった。繰り返し読ませたり書かせたりする中で、確実な定着へと結び付けていく。

- それぞれの教科で、家庭学習や授業の始めの時間等を利用し、既習事項の確認や繰り返し学習などを行い、学習が積み重ねられるよう意図的に指導していく。
- 日常的な活動や補充活動として教室の掲示物等の環境を整える。話型や算数用語の掲示の活用を積極的に行っていく。また、タブレットPC等ICT機器を活用し、視覚的效果を図り、理解を深める教材提示をしていく。

(2) 問題文・資料から必要な情報を取り出し、活用する力を付ける。

○算数での「数と計算」「図形」領域で課題が見られた。計算は7割以上の児童ができているが、問われていることを正しく理解し、答えることに課題がある。

- 授業では、問題把握や場面をイメージして、図に表す時間確保をし、結論を導き出すような授業展開を意識してすすめていく。
- 「変化と関係」では、数量関係を視覚的に捉えるのが難しいため、関係性を表すためにテープ図や数直線を活用して指導していく。また、いろいろなパターンで数直線に表す経験を増やして問題理解につなげる指導をすすめていく。

○問題解決型の授業展開を意識して取り組む。

- 児童に問題に対する自分の考えをもたせ解決するために必要な情報をつかみ、再度まとめさせる。また友達と共有する時間を取り、考えを確かなものにしたたり深めたりできるような時間や結果・現象の理解を深めるために、数値や内容を根拠として表現する時間を設けていく。